

言語の語順と思考の順序： カクチケル・マヤ語からみた人間の 文処理メカニズム

要旨：

日本語や英語など多くの言語の理解（聞く、読む）や産出（話す、書く）の際に、主語（S）が目的語（O）に先行する語順（SO 語順 = SOV, SVO, VSO）のほうが、目的語が主語に先行する語順（OS 語順 = OSV, OVS, VOS）よりも処理負荷が低く母語話者に好まれる傾向があることが知られている（SO 語順選好）。従来の文処理研究は全て英語のようにSO語順を基本語順にもつSO言語を対象にしているため、SO語順選好が個別言語の基本語順を反映したもの（=個別文法説）なのか、あるいは人間のより普遍的な認知特性を反映したもの（=普遍認知説）なのかが分からない。この2つの要因の影響を峻別するためには、OS語順を基本語順に持つOS言語で検証を行う必要がある。そこで、私たちの研究チームでは、OS言語であるカクチケル語（グアテマラのマヤ諸語のひとつ）を言語学、心理学、脳科学など多様な観点から研究することによって、個別文法説と普遍認知説を検証した。本発表では、その研究成果の一部を紹介し、人間の文処理メカニズムについて考察する。



講演者

小泉 政利

KOIZUMI

Masatoshi



東北大学大学院
文学研究科
准教授



日程: 2014年12月4日(木曜日) 午後4時30分～午後6時 (5コマ目の授業時間帯)
場所: 名古屋大学全学教育棟・北棟405号室 <参加自由・無料>